

(様式2)

令和 6 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300205		
法人名	社会福祉法人 吉田福祉会		
事業所名	グループホーム長善のさと(2ユニット共通)		
所在地	新潟県燕市粟生津55番地		
自己評価作成日	令和6年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和6年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

互いのユニットや併設している小規模多機能サービスとの間に壁や仕切りのない間取りの建物となっており「家庭的な雰囲気」とは少し違う環境や印象だとは思いますが、そんな「特徴」を活かしてご利用者同士の交流に重きをおいています。

忙しくても無駄にバタバタしない・大きな耳障りな声は出さない・ゆったりとした環境作りを大切にしていこうという思いを職員は日々心がけています。また、良い技術を持つ前に良い心と温かいケアが提供できる職員という考え方も大切にしています。年数を重ねる中で、重度化という避けて通れない現実も年々目だってきており、現在では「良い心と温かいケアに、良い技術も兼ね備えた職員」を目指し日々の支援に取り組んでいます。

この地域は、伝統的に子どもから高齢者まで地域の皆で支えようという団結力があり、様々な地域行事や交流があります。小学校や保育園も近所なので交流の機会があり、絆の深い地域だと実感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の建物は、古民家をリノベーションして実現したもので、居間と食堂が吹き抜けの広がりのある空間となっており、利用者が居心地よく暮らせる環境が整えられている。この建物は、以前そばん教室として利用されており、その教室に通っていた生徒が、現在事業所を利用しているという地域とのつながりも特徴的である。また、この建物は地域住民の寄付によって実現したものであり、地域との良好な関係が基盤となっている。

事業所は併設された小規模多機能居宅介護の利用者とも一緒に過ごせる開放感のある明るい空間である。両サービスの利用者により一体的に食事を提供しており、1回の食事提供は15名から20名程度に対応している。毎日のミーティングを基に利用者の生活状況を職員間で共有し、ゆったりとした空気感を作り出している。また、利用者の外出希望に応じて、小規模多機能居宅介護の送迎車を使用し、ドライブの機会を提供するなど、利用者の要望に柔軟に対応している。

地域との交流においては、近隣の小学校に通う児童が登下校時に利用者へ挨拶するような温かい関係が築かれている。コロナ禍により地域行事への参加が一時途絶えていたが、5年ぶりとなる文化祭が10月に開催予定であり、利用者や職員の参加が予定されている。また、事業所の食堂には、利用者が制作した貼り絵とともに、小学校のチャレンジクラスの作品が掲示されており、温かい雰囲気を作り出している。さらに、近隣の畑で採れた茄子やきゅうりの寄付があるなど、地域との交流が日常的に行われており、地域に根ざした事業運営が行われている。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に理念を職員で考えた。年度末に理念の継続の是非を職員に確認している。職員の異動等もあるので年度当初にあらためて理念を振り返り、共有している。	開設時からの事業所理念を玄関に掲示するとともに、毎年度当初に職員会議で検討を加え、理念を職員間で共有している。地域の情報をやりとりし、地域行事等へ参加し、理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には可能な範囲・可能な形で参加するようにしている。コロナ禍による中止や縮小もあったが徐々に再開してきている。保育所や小学校から壁飾りが送られたり近所からおすそ分けがあったりといった交流もある。	コロナ禍のため地域への行事参加が途絶えていたが、5年ぶりの文化祭が10月に開催予定であり、利用者の参加を予定している。食堂には、小学校のチャレンジクラスの作品や利用者の貼り絵が掲示されており、温かい雰囲気を作り出している。近隣の畑でとれる茄子やきゅうりの寄付があり、利用者の食事として提供している。今後も、地域の行事に可能な限り、参加を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、認知症についての勉強会を民生委員と協力して行なっている。コロナ禍による中止もあったが再開されつつある。事業所の情報誌は公民館等にも掲示し情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員からは、意見や助言を頂いたり、地域の情報交換ができています。日常的に関わりのある方もおり会議時以外でも意見交換の機会がある。	運営推進会議の参加者は、利用者、家族、地域住民、市職員、地域包括支援センター職員、事業所職員で構成されている。会議に参加した利用者が、自身の暮らしを振り返る場面では、「ようしてらっている」と話していた。会議が、近隣地域との情報共有の場としても機能している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加していることもあり、定期的に運営等の報告はできている。	元日の能登半島地震では、事業所も被害を受けた。倒れた灯籠の撤去や屋根の瓦の修繕が必要となり、市の担当課に相談し、市の補助金を活用して対応した。 また、事業所は地域ケア会議に参加しており、会議では事例検討を行い、心配なケースや虐待のケースについて関係者が情報を共有する場となっている。さらに、地域課題についても検討が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。事業所の研修計画で虐待防止も含め、年3回の身体拘束の研修を予定・実施している。他、事業所内の委員会や事業所会議で3か月に1度身体拘束について話し合っている。	虐待防止も含め、年3回の身体拘束の研修では、拘束に当たる事案の確認や不適切なケアに関する振り返りを行っている。センサーマットの使用については、職員間でその目的を共有し、継続的に必要性を検討している。日中の施錠は行わず、利用者に、散歩等の外出希望がある場合は事前に職員に声をかけてほしいをお願いし、職員も一緒に散歩をするなど、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の研修計画で身体拘束も含め、年3回の虐待に関する研修を予定・実施している。(身体拘束と兼ねての委員会があり、定期的に話し合っている。)	定期的実施している「虐待防止委員会」では、虐待にあたる対応やグレーゾーンの対応がないか、実際のケアを振り返り検討している。また、法人の「衛生委員会」でストレスチェックを行ったり、必要に応じて専門のカウンセラーが職員のメンタルヘルスの相談に対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の研修に関連付け、大まかではあるが権利擁護に関する研修を管理者を中心に行なった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容をわかりやすく説明するよう努めている。不明な点等ないか、確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置してある。法人で年1回ご利用者、ご家族に意見や要望等のアンケート「ご意見承り書」を送付している。意見をもとに事業所のケア等の改善に努めている。	家族には面会時に要望を聞く機会を設けており、日用品の不足について早めに連絡してほしいという要望があったため、現在は迅速に対応するよう改善している。利用者については、日頃から利用者の小さな変化を見逃さないように注意を払いながら、利用者自身の要望を受け止めるよう努めている。また、法人として家族向けのアンケート調査を年に1回実施している。今後は、アンケート結果について利用者や家族へのフィードバックをより広く行っていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を原則毎月開催している。職員が意見を言える場になるよう、事前に用紙に意見を記入してもらっている。	職員会議や日々の業務の中で、職員からの意見を聞くよう努めている。修繕や物品の購入、行事の企画、勤務に関する要望などが寄せられ、それらに対して早期に対応することを心掛けている。具体的な事例として、職員からの報告を受け、夜間に使用する人感センサーの修理対応を迅速に実施した。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としての職員育成のシステムがあり、目標を決めし向上心を持って働けるよう、面接等思いを聴きとる努力はしている。職員のストレス緩和のために法人でカウンセラーと契約している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は毎月計画的に実施しており勤務の事情で出席できなかった職員にも伝達・周知している。外部研修・法人内の研修は職員の希望やスキル等を考慮しながら可能な範囲で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画担当者は燕・弥彦地区の介護支援専門員協議会の研修や地域ケア会議にて交流・情報交換を行っている。地域のGH間で交換研修も行われていたがコロナ禍以降休止中。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において、ご本人、ご家族の現状と思いを確認させて頂く。事前資料による先入観は持たないよう気を付けている。また要望にはできる限り応えるようにしつつ、できること・できないことは伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの経緯を受け止めて話を伺うように心がけている。入所当初等はご家族に安心して頂けるよう、様子をこまめに報告するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込み時の状況や経緯・緊急性によって他のサービスを紹介・提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	職員は「介護者の立場」ではなく「隣にいる立場」でありたいと考え、人生の先輩であるご利用者に対して尊敬の気持ちを持ちながら「共に過ごす」という形を作るよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	現在は面会に制限があるが、面会の際には極 力居心地よく過ごしてもらえるよう配慮したり、ご本 人の近況を伝えてご家族の思いもお聞きするよう にしている。ご家族との関係性保持の為、状態 報告書も郵送している。	家族には、利用者の定期受診や日用品の購入と いった役割をお願いするとともに、利用者の情報を 共有するよう努めている。毎月、預かり金報告書を 郵送する際には、「状態報告書」を同封し、また、 利用者の写真も随時郵送している。家族からは、 面会や外出の機会を利用して利用者の薬をセット して持参するなど、積極的な協力が見られ、事業 所との連携関係が築かれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も今までの暮らし続けた地域から切り離 さないよう、馴染みの場所に出かけられるよう心掛 けている。家族・親族だけでなく友人の面会にも 対応している。	友人や親戚が面会に訪れることがある。また、併設 する小規模多機能居宅介護の利用者が、グルー プホーム利用者の近所の方だった事例もあり、これ までの関係を継続できるよう配慮している。 利用者の要望に応えた具体的な事例として、墓参 りや墓掃除の希望への対応や、コロナ禍で地元商 店街が発行したクーポンを活用し、馴染みの店で 買い物をする機会を提供した事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	対職員だけでなく、ご利用者同士の関係性も大 切に考えている。職員が皆さんを巻き込んだの コミュニケーションやご利用者の間に入り意識して 良い関係性が作られるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	野菜を届けてくれたりといった交流のあるご家族 はある。踊りのボランティアの一員として来所して くれたご家族もいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	上手く伝えられない状態の方もおられるので、 普段の様子に寄り添いながらご本人の思いを探り ご本人らしい暮らし方が送れるよう心掛けている。 「わかったつもり」にならないよう意識はしている。	利用者の思いや意向の確認は、計画作成者が 行っている。本人が話した言葉をそのまま介護計 画書に記載し、それを基に目標設定を行ってい る。また、他の職員から寄せられた情報や、利用者 の意向に変化があった場合は、介護計画書に赤 字で追記し、意向の把握と職員間の情報共有につ なげている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前(事情情報)や入居時にご家族・ケアマネ等により情報収集をしてはいるが、入所後も折に触れて話を聴いている。	利用者の入居前の情報は、家族からの聞き取りや在宅時のケアマネージャーからの情報提供、認定調査の資料を活用して把握している。入居後は、毎月のモニタリングや3か月ごとの計画更新の際にアセスメントシートの見直しを行い、利用者の状況や意向の変化に対応している。 把握した情報をもとに、野菜の皮むきをしてもらったり、トランプの7ならべを楽しむといった日常の取り組みにつなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時によって暮らし方も変わるため、ご本人のペースに合わせながら、その時々状態を見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する場合はご家族の意見も確認し、スタッフ会議等でもカンファレンスを実施している。自分の思いを上手く伝えることができない場合もあるので、できるだけ日々の中でご本人の言葉を聴きとるよう務めている。	職員はそれぞれ1～3名の利用者を担当しており、担当職員が毎月のモニタリングを行っている。本人や家族から要望を聞き取り、月1回のスタッフ会議やカンファレンスで検討し、介護計画の更新や見直しを行っている。介護計画には、ケア内容のほか留意点や特記事項などがきめ細かく盛り込まれている。	事業所の職員に加えて、利用者自身や、家族、近隣の方、医師等の専門職等の役割を介護計画書に明記することにより、一人ひとりの利用者への支援がさらに充実することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有が滞らないよう日誌や日々の申し送りの方法等配慮している。毎日のミーティングでミニカンファレンスをしたり見直しや周知も必要に応じ行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族のニーズには応える努力はしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員に対し、暮らし続けた地域に出向くことはできていない。しかしご本人が〇〇に行きたい、したいという要望にはできる限り応えたいと思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得の得られた医療機関からフォローをもらっている。入所前からのかかりつけ医を継続している方も多い。また入退院の際にはスムーズにやり取りが進むよう、医療関係者との連携をとっている。	利用者の状態が安定している場合は、家族同行による通院をお願いし、必要に応じて医師への質問書等を使用している。また、近隣の医療機関が協力医として定期的に往診を行っており、訪問看護ステーションの看護師とも24時間連絡が可能な体制を整えている。 さらに、併設する小規模多機能居宅介護の看護師が巡回を行っており、適宜相談や助言を受けながら、利用者が必要な医療に適切につながるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約している。毎週の訪問と必要時の助言等をお願いしている。24時間体制なのでいつでも対応してもらっている。介護の視点を大切に相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、ケアマネから病院に情報提供している。面会の他、電話で看護師や病院の相談員と連絡を取り合う等病院関係者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて方向性を検討したり、ご家族とも話し合いを行なうように努めている。ご家族の気持ちはその時々で変化するものと思っているので、思いを大切にしながらご家族と一緒にケアするという思いで取り組んでいる。	入居契約時および利用者の状態に変化があった際には、家族等と今後の暮らしについて話し合いを行っている。職員は、利用者の食事や排泄、立位の状況など、毎日のミーティングで共有される情報を基に検討し、必要に応じて医師と連携を図ったり、特別養護老人ホームへの入所申請を家族に助言するなど、個別のケースに応じた対応を行っている。 現状では看取りの支援は行っていないものの、看取り支援に関する指針が示されており、職員向けの研修も実施されている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人職員全員が救命講習を定期的に受けている。必要時には訪問看護師から処置の方法等気になる点について、助言や指導を受けている。想定される急変等への基本的な対応方法は、毎年研修にて確認している。	事業所の事務室にはAEDを備えており、職員が3年に1回、計18時間の救命救急講習を受講している。また、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際の振り返りを基に、感染症マニュアルの見直しを行い、2024年度版として整備を進めている。こ	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練は事業所にて定期的に行なっている。水害対策等は地域の合同避難訓練に参加し、避難経路や所要時間等、地域と協力体制について協議している。	元日の能登半島地震の際に、隣に居住する民生委員から利用者の状況の確認に協力してもらった。11月の避難訓練では、誘導の手伝いを依頼している。地域が主催する合同避難訓練にも参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の場面でスタッフ主導になっている可能性はあるため、権利擁護やハラスメント・虐待防止とからめて研修等にて注意喚起している。	入浴や排泄の場面においては、利用者への対応や言葉かけが職員主導にならないよう注意し、利用者の意思やペースを尊重した支援を心がけている。今年度は、ハラスメントに関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアの重要性を再確認した。また、プライベートな飲食の場で、固有名詞を言わなくても利用者の情報が特定される可能性があるため、守秘義務を徹底し、利用者の個人情報外部に漏れないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のために自分の思いを表現しづらくなっていることを職員は理解し、思いを引き出すような関わりをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等は極力「特にない」状況にしている。例えば、食事の時間はおおよそ決まっているが1人1人の暮らしのペースに合わせ一日が流れることを目標にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや希望に沿うようにはしており身支度しや髪が伸びていないか等整容にも配慮はするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員対し能力にあった作業ができる関わりはできていない。作業しながら会話が弾むよう心掛けている。主な作業はとなっているが、人数は少ないが積極的に関わってくれたり調理の手伝いをされる入居者もいる。	事業所では、食材を地元の商店から購入するとともに、主菜は法人内の就労支援事業所から仕入れている。副菜や汁物などは職員が交代で調理し、利用者に提供している。小規模多機能居宅介護の利用者とも一体的に食事を提供しており、1回の食事提供は15名から20名程度に対応している。また、調理の手伝いに参加する利用者もあり、職員の誘いに対して無理なく応じられる気分のときに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を見て食材が重複しないようにしたり、必要に応じミーティング等で水分量や食事形態が適切か話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最低でも一日一回は(できれば毎食後)口腔ケアをしてもらうよう対応している。必要そうな方には歯科受診につなげたりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ等の使用を一概に減らせる・減らすべきとまでは考えていないが、排泄のパターンをつかみ、個々の状態に合わせた支援に取り組むようにしている。	トイレ内は、車いす利用者の支援が可能な十分な空間が確保されており、常に清潔な状態が保たれている。排泄チェック表を活用して、利用者の排泄状況を把握し、服薬のタイミングや量の調整を適切に行うよう努めている。また、排泄のパターンを把握し、それに基づいた個別の支援を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために良いとされる飲み物や食べ物を個別に取り入れたりしている。また排便の有無の確認を行ない、訪問看護の協力を得て必要な処置等が行われている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、入浴前に「お風呂に入りませんか？」と意思確認をしている。無理強いするはず、時間や曜日を変えて誘ってみる等気持ち良く入浴してもらえるよう工夫はしている。	事業所では週に2回の入浴を原則としており、現在、週に3回入浴している利用者が1名いる。設備としては、移乗の負担が大きい利用者向けの特殊浴と、2か所の個浴が設置されている。また、同性介助の希望に対応したり、ゆったりとした雰囲気を作るための言葉かけを心掛けている。さらに、入浴剤を使用したり、季節感を楽しめる柚子湯や菖蒲湯を提供することで、入浴が楽しみの時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休息してもらっている。就寝も個々で違い、眠れない方には無理に休んでもらうようなことはせず、テレビを観たりお茶を飲んだりゆっくりと過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員ではないが調剤薬局の居宅療養管理指導を活用し処方薬をセットして届けてもらい、必要時には相談・問い合わせも行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から得意だったことを聴いたり、日々の関わりで取り組んでみたいことなど一緒に探しながら、生き生きと過ごせる場面を見つけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者から〇〇に行きたいという要望(地域の行事や墓参り等)があれば、状況を確認・調整しながらできるだけ希望に沿えるよう対応している。	利用者の「出かけたい」という要望に応じて、個別の支援を行っている。散歩が好きな利用者には職員が同行し、安全を確保しながら散歩を楽しめるよう配慮している。また、小規模多機能居宅介護の送迎車を活用し、ドライブの機会を提供するなど、外出の幅を広げている。 さらに、家族や親戚と外出したいと希望する利用者には、日程の調整や外出時に必要な支援について助言を行い、スムーズに外出が実現できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を自己管理をしている方は1名。現状ではご利用者と買い物に出かけることは少なく、代行することが殆どではある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば仲介・支援はしている。家族親族や友人からの手紙も取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や心地よい雰囲気を作り出すようには努めている。職員が最も影響する環境であることを理解し、声の大きさや物音には配慮している。	居間と食堂は吹き抜けのある広がりのある空間となっており、15名から20名の利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。壁には利用者が制作した季節感のある貼り絵が掲示され、空間に温かみと彩りを添えている。 また、利用者が個別に過ごせるスペースとして、衝立で区切られたベッドやソファが配置されており、プライバシーを確保しつつ、リラックスできる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の仕切りのない広いフロアなので、いすやテーブルの配置を工夫し、できるだけ自分の過ごしやすい居場所を持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはなじみの深い家具類のご持参をお勧めしている。その他、担当職員を中心にご本人と安心して過ごせるお部屋作りをしたりしている。	居室内は、利用者が使い慣れたタンスなどの家具を持参し、家族の写真や自身の作品を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、居室の清掃については、法人内の就労支援事業所に委託しており、定期的な清掃を行うことで清潔な空間を維持している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時や必要が生じた際には、状況に応じ見やすい位置に表示を貼る等の対応は行っている。勾配等、入居者によっては危険が生じるような場所は個々に声掛け等行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				